

Press Release(H25/6/17)



岐阜大ブランド
観葉植物スパティフィラムの新品種

Fairy Wing
フェアリーウイング

近日発売予定！！

“世界で評価された和の観葉植物”



観葉植物スパティフィラムの新品種「フェアリーウイング」は、本学応用生物科学部の福井博一教授の研究室で、長年研究されてきたバイテクノロジーの技術（倍数体形成技術）によって誕生しました。

岐阜大学としては、種苗登録第1号の品種となります。

さらに、この品種は、オランダで開催された2012年フェンロー国際園芸博覧会（フロリアード2012）において金賞を受賞しています。

【フェアリーウイングの特徴】

白い花が丸みを帯びた可愛らしい形です。

花・葉ともに肉厚で、耐暑性、耐寒性、耐乾性に優れ、花粉が出ないためテーブルを汚すことはありません。花が終わってもインテリアグリーンとして楽しめます。光合成能力が高く、室内照明の明るさでも管理できます。

【生産・販売箇所】

現在、岐阜大学柳戸農場で1万鉢を生産しており、今後は岐阜県内でも生産を拡大していく予定です。販売は、岐阜大学柳戸農場だけでなく、岐阜花き流通センター農業協同組合を通じて、北海道から鹿児島まで、55以上の花の市場に出荷していく予定です。

【こだわりポイント】

＜こだわりの名前＞

花の部分が妖精の羽をイメージさせることから「フェアリーウイング」と名付けました。

＜こだわりの培養土＞

長く楽しんでいただくために、土にもこだわっています。水の保ち方をよくするため、ピートモスとハスクチップを配合。肥料持ちをよくするため、亜炭とバーク堆肥を配合。

さらに、気相（空気）率確保のために、パーライトとロックウールを配合しました。

<こだわりの器>

伝統工芸士の土田育弘氏により、土岐市の隆月窯で焼かれた美濃焼の器に入れて販売いたします。これにより「和」の雰囲気演出されます。

【フェアリーウイングの開発に至るまで】

岐阜県や岐阜市の産学共同研究助成を受け、岐阜花き流通センター農業協同組合と共同で、暑さや寒さなどの耐候性に優れた品種の開発が進みました。この開発には、研究室で長年研究されてきた倍数体形成技術を用いています。この技術により、染色体の数を3倍体、4倍体などへ変形させることにより、花の色、形、性質などが元の個体と異なる個体を生み出すことができます。研究室では、何千もの個体を1個ずつ多様な条件の下で、分析した結果、一番効率の良い4倍体細胞を生み出し、新品種「フェアリーウイング」の開発に成功しました。

詳細な内容は、岐阜大学公式 Web サイトをご覧ください。

【本件に関する問い合わせ先】

岐阜大学応用生物科学部・生産環境科学課程・園芸研究室
教授 福井博一

TEL：058-293-2892

E-mail：fukui@gifu-u.ac.jp